

とうべつ

手にとって ^{ぐ〜っと}good 身近に



WEB版はこちら

議会だより



No. 209

令和4年6月1日発行

CONTENTS

3月定例会

町長・教育長の執行方針に対する代表質問 p. 2

- ・デジタル都市の実現に向けて
- ・新庁舎とまちづくりを考える
- ・当別町の農業を守るために！
- ・女性農業者活躍へ向け環境整備を

議論続く除排雪、工事続くとうべつ学園 p. 7

予算審査特別委員会、常任委員会、令和3年度補正予算審議

6人の議員が町の考えを質す p.14

- ・安心・安全の当別町に
- ・スウェーデン大通の歩道整備を
- ・公園遊具整備の早期再開を
- ・町の将来の問題、町挙げて運動を
- ・次世代に継承可能な農業政策を！
- ・子育て世帯の支援にリアルな声を

新設された「とうべつ学園」を視察 p.22



新しい校舎で授業に臨む児童（当別町立とうべつ学園）



代表質問

会派清新 山田明 議員

質問の
ねらい

デジタル都市の実現に向けて

人口減少、少子高齢化に歯止めがかからない現状に加え、コロナ禍で町全体に閉塞感が漂っている。人生100年時代を迎え、アフターコロナを生き抜き、町を総合的に発展させると執行方針で表明している。子

もから高齢者まで、町民の生命や財産の安全が確保され、安心した生活が送れるようにデジタル化を進め、“デジタル田園都市”の実現を目指すとするが、町の課題克服に向け、どのように取り組む考えか伺う。

ここが
聞きたい

デジタル格差への対応は

問 地方行政においても、デジタル化の波は、すでに浸透しつつあるが、デジタル機器に不慣れた住民、特に高齢者へのサービスやサポート体制をどのように図るのか。

答 対策の1点目は、高齢者向けスマホ教室の開催で、2点目は、さらなる高齢者のマイナンバーカードの取得促進である。全町民がデジタル化の恩恵を受けられる町の実現に向け、努力する。

ここが
聞きたい

役場新庁舎の建設に向けて

問 近年、各地で地震が多発しており、町内で地震が発生した場合、庁舎の倒壊が考えられる。庁舎には防災センターの役割もあり、建設にあたっては事業スピードを最優先とすべきでは。

答 役場庁舎は、災害発生時の対策本部となり、また住民の避難場所ともなる防災拠点の最重要施設である。従って、新庁舎建設事業は、早急な事業展開が必要であると認識している。

ここが
聞きたい

6次産業化の取り組みは

問 道の駅プロジェクトの「生産して、加工して、販売する」という6次産業化は、地元の生産者、JA北石狩、商工会との連携が必須である。具体的にどのように連携して事業を進めるのか。

答 地域商社機能を持つ(株)tobeの指定管理業務に地域特産品開発業務を追加。当別ブランド創出は、tobe、JA、商工会、町はもちろん、農業者や事業者の強い意思と実行力が必要不可欠。



北欧の風 道の駅とうべつ

ここが
聞きたい

除排雪体制の強化は

問 2年続けて災害級の大雪に見舞われた当別町において、雪対策の強化にどのように取り組むのか。役場内に除排雪の専門部署の設置を検討するなど、次年度に向けて除排雪体制の強化は。

答 大きく2点あり、1点目は人員不足の解消、2点目は効率よく作業できる発注方法の検討が必要。部署は道路を管理する建設課が適切と考えており、令和4年度も現体制で進めていく。

ここが
聞きたい

役場組織の編成替えは

問 役場職員の資質向上及び働き方改革に向けて、部署の新設、統廃合など人事も含めて行政組織の編成替えが必要では。

答 組織編成、職員人事は、町長に与えられた権限。課題に対し速やかに効果的に対応できるよう編成、人事を行っていく。

代表質問 会派爽新 古谷 陽一 議員

質問の
ねらい

当別町の農業を守るために！

水田活用の直接支払交付金の見直しは農家にとって影響が大きく、農業がこれからも発展していくために、その対応について質した。また、昨年に続いて大雪となり、さまざまな影響が出た。安心して住み続ける

ための除排雪体制の整備について質した。さらに、本年4月に開校となる「当別町立とうべつ学園」の校舎の特徴と教育効果について、幼児教育のICT化について見解を伺った。



ここが
聞きたい

当別町農業を守るために

問 本町は農業を基幹産業として発展。昨年11月に水田活用の直接支払交付金の見直しが示され、農家にとっての影響は非常に大きい。農業がこれからも持続的に発展していくための対応は。

答 先日、農業再生協議会を開催し、多年生牧草の交付金単価の大幅な見直しなど、課題が多く共有された。国の動向を注視し、町内農業関係団体、北海道、町村会と連携し対応していく。



田植えの様子

ここが
聞きたい

新たな除排雪体制を

問 昨年に続き災害的な大雪により甚大な被害が出た。豪雪地帯の当別町として、町民が安心して暮らしていくためには、新しい除排雪体制が必要であると考えるが見解は。

答 最大の課題はマンパワー不足である。この解消のため、組合への加入に関わらず、町内事業者、町外事業者の参入により、体制強化を図っていくことが、町民の満足度を高めると考えている。

ここが
聞きたい

幼児教育のICT化

問 幼児教育のICT化^{※1}について、子どもたち、保護者にどのような負担軽減となるのか。また、保育士の働き方改革に、どのようにつながるのか。幼児教育のデジタル化の見解は。

答 子どもや保護者には、送迎バスの待ち時間が見える化され、各種手続きや園との連絡等が簡素化される。また、保育士は、園児情報の管理、保育日誌の作成等、事務作業の軽減が見込まれる。



当別町立とうべつ学園

ここが
聞きたい

とうべつ学園の開校

問 本年4月より、とうべつ学園が開校。変化の激しい困難な社会の中で、未来を生き抜く力をつける取り組みを進め、そのけん引校となるととうべつ学園の校舎の特徴と教育の効果は。

答 ゆとりのある空間や自由度の高いレイアウトは、これからの時代の学びを実現するにふさわしい環境。小学生と中学生が一緒に生活することで、期待以上の効果が表れると確信している。

※1 ICT…Information and Communication Technology の略。メールやSNSなど通信技術を活用した産業やサービス等の総称。

代表質問 会派緑風会 秋場 信一 議員



質問のねらい 新庁舎とまちづくりを考える

新駅開業に伴い、公民連携の周辺開発が始まった。本町地区では、新校舎の開校を目前に、子育て世帯向け公共賃貸住宅の整備や新築住宅支援等により転入増を目指しているが、新庁舎の候補地決定に伴う廃止

後の庁舎や町有施設の利活用課題が山積している。今後のまちづくりにデータを駆使し、本格的に検討すべき時期と捉え、町長に質した。また、町を担う新デジタル世代のGIGAスクールの現状について質した。

ここが聞きたい

町に有益な候補地決定を

問 新庁舎の候補地が4か所示され、今後、絞り込み作業が進められていくが、住民への説明会のスケジュールは。また、議会に対しては、どの時期に示すのか。

答 検討委員会の協議をもとに候補地を絞るが、年内にはその検討状況を含め、住民説明会を開催するなどし、広く町民理解を深めていく。議会への報告は、必要に応じて、遅滞なく実施していく。

ここが聞きたい

跡地利用を専門的な組織で

問 新庁舎の候補地から漏れた箇所を含めて、跡地利用はこれまで以上に重要性が高い。今後どのように進めていくのか。中心市街地を総合的に研究していく専門的な部署が必要ではないか。

答 候補地は、立地適正化計画の方針に基づき、民間活力の導入も含め、有効活用できるように検討していく。また、体制は必要に応じて見直す。新年度はこれまでどおり対応していく。

ここが聞きたい

ギガスクール構想その後

問 国の変更により3年前倒しで1人1台のPCを整備し、教師たちは準備に追われた。ICTの能力の差が子どもたちの格差へつながらないか。教師への研修はどのように実施され、その効果は。

答 教育委員会では4年前からICT活用の研修を実施し、道教委や管内の研究機関でも実技研修等の機会を確保。さらに、学校にはICTリーダーを配置。学びに差が生じるということはない。



PCで作業する生徒

ここが聞きたい

オンライン授業を出席に

問 ICT機器の整備で各家庭での遠隔授業が可能になった。登校が困難な場合、町独自の判断で自宅からのオンライン授業が可能であればメリットは大きいと思うが、出席扱いにできないのか。

答 コロナ禍や大雪で登校できない場合、オンライン学習を既に実施。国の指針は、出席しなければならない日数には含めず出席停止扱い。現行では自治体の判断で出席扱いとすることはできない。

ここが聞きたい

プレイハウスの民間委託は

問 現行の自前の運営から民間へ運営委託するようだが、これまでの運営に問題があつてのことなのか。あるいは、より充実した運営が望まれたものなのか。なぜ運営形態を変更するのか。

答 課題があつたからではなく、限られた予算でさらに質を上げるため、民間委託を選択した。

代表質問 会派公明 五十嵐 信子 議員

質問の
ねらい

女性農業者活躍へ向け環境整備を

国の施策として「女性農業者が能力を最大限発揮できる環境の整備」が掲げられ、女性農業者の確保・育成が求められている。6次産業化等の担い手としても大きく期待されいるため質した。また、新年度新たな

計画となる「地域公共交通計画」を策定するため、町民の要望を踏まえた取り組みを質した。さらに、学校において、医師の判断により通学可能となった医療的ケア児を受け入れる考えはあるか質した。



次のページは

新年度予算・令和3年度補正予算等

多岐にわたる質疑がありました。

ここが
聞きたい

女性の活躍は重要な役割

問 農家の後継者不足により農家戸数の減少が進むため、持続可能な取り組みが重要。次世代を担う女性農業者が活躍しやすい環境整備や人材確保・育成に向け、どのように検討しているのか。

答 町と農業関係機関で組織する農業総合支援センターでは、農作物の栽培方法や経営などの基礎を学ぶ「農業経営塾」を開催。夫婦で参加するなど女性も積極的に参加していると聞いている。



稲刈りの様子

ここが
聞きたい

一人一人に寄り添い解決を

問 高齢になり、農地の後継ぎ問題で悩まれる方は多い。担い手確保事業の一環として、人と農地を把握し、安心して委ねられるサポート体制の充実に向けて、どのように取り組まれているのか。

答 農業総合支援センターでは、実態を把握するため調査を実施。関係団体で情報の共有を図っている。今後、センターがワンストップ窓口となり、マッチングが進むよう体制を充実させていく。

ここが
聞きたい

医療的ケア児の通学受入は

問 とうべつ学園の建設決定後、子育て世帯の転入が増加傾向にある。看護師を配置している状況下において、通学可能と判断される医療的ケア児の通学の間口を広げ、受け入れる考えはあるか。

答 これまでも教育支援委員会において教育学や医学、心理学等の専門的知見に基づき、町立学校での生活ができると判断された場合は、受け入れしている。今後も同様の方針を進めていく。



ふれあいバス

ここが
聞きたい

新たな地域公共交通計画

問 ふれあいバスは子どもから高齢者に至るまで、なくてはならない地域の足として定着している。町内外利用客の便利で快適な乗り物として親しまれるよう、今後どのように取り組んでいくのか。

答 公共交通の充実・確保は、生活の質の向上だけでなく、定住人口の増加の要因となるなど、持続可能な町の構築に不可欠。さらなる利便性向上を目指し、令和4年度には計画を策定する。